

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成19年12月21日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3770300329		
法人名	医療法人社団五色会		
事業所名	グループホームたまもよし		
所在地	香川県坂出市加茂町194番地1 (電話) 0877-48-3300		
評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成19年10月31日	評価決定日	平成19年12月21日

## 【情報提供票より】(19年 9月 1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 12年 12月 19日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	9人	常勤 9人、非常勤 0人、常勤換算	6.3人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り 2階建ての1階 ~ 2階部分
------	------------------------------

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	31,500円	その他の経費(月額)	12,450円+実費
敷金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000円		

### (4) 利用者の概要(9月 1日現在)

利用者人数	9名	男性 3名	女性 6名
要介護1	5名	要介護2	2名
要介護3	2名	要介護4	0名
要介護5	0名	要支援2	0名
年齢	平均 85.7歳	最低 79歳	最高 93歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人五色台病院
---------	-----------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

自然に恵まれた静かなホームであり、母体が医療法人で老人保健施設と併設しているため、病状の変化に伴う対応は24時間可能である。また、1ユニットの少人数の欠点については、医療管理等を含め、法人内の協力によりカバーしており、少人数の利点の部分が様々なところで発見できる。また、認知症ケアについては十分な質を提供しており、個人台帳は医療的管理が記録されている。地域密着型サービスについて、少しずつであるが、確実にサービス理念に沿った会議が運用されているので、今後に期待したい。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<b>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</b> 前回評価でのねらいや活用方法を全職員が理解している。サービス評価に対するホームが改善するうえでの根拠を明確に理解し、改善効果も考えながら、また、1ユニットの継続性を加味しながら活用している。前回の改善点である玄関口の「たまもよし」という明示や、ホーム独自のホーム便り「うぐいす新聞」の発行は改善できているが、利用者と一緒に食事をするには、安全性の面から、まだ定着はしていないので、今後の取り組みに期待したい。
	<b>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</b> 自己評価に対する取り組み状況として、1ユニットの少人数から考えて、ホームの質の改善効果と継続性を考えながら、根拠に基づいて取り組んでいる。他事業所が実践している状況に対しても、自事業所としてどうあるべきかを加味しながら、柔軟な発想で取り組んでいる。利用者と一緒に食事をするには、安全性の面からまだ定着はしていないが、将来は定着できるように考えている。また、新たに外部の方が訪れやすくなるために、屋外の門に名称を掲示しており、その後の動線を考えた案内図の掲示を検討して欲しい。
	<b>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</b> 平成18年8月から2か月に1回、運営推進会議を開催しており、利用者・家族・地域・行政・職員が参加して、ホームの質の向上や地域について話し合いができています。市・市地域包括支援センター・市社会福祉協議会等が定期的に訪問し、相談及び苦情受付を定期的に行っている。また、市・市地域包括支援センター・市社会福祉協議会等と地域の文化祭等で連携を図っており、地域密着型サービスとしての取り組みを確実に実践している。
	<b>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</b> 一人ひとりの利用者の暮らしぶりを、家族の状況に応じて報告している。家族への報告は、月1回ホーム利用料を現金で支払いにくる際に、合わせて実施しており、ホーム便り「うぐいす新聞」も渡している。利用者・家族の意見や苦情等は、2か月に1回開催する運営推進会議で協議し、また、職員全体で話し合い、家族の意見を前向きに受け止め、ホーム運営に反映させている。
重点項目②	
重点項目③	
重点項目④	<b>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</b> 事業所は孤立することなく地域の一員として、同地区内の保育園からの訪問を受けたり、地域の文化祭への参加、福祉ママ等のボランティアとの交流に努めている。また、積極的に地元の活動や地域住民との交流に取り組んでいる。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念は、「1 成人としての尊厳を尊重する。2 強制せず自由意志を重んじる。3 真実を語る。4 みんな公平に。5 好意と愛情を持ち接する。」であり、ホームの理念として取り入れている。新たに地域密着型サービスの意義を取り入れ、職員全員で作り上げる理念、または、モットー・特長を検討中である。	○	法人の理念を念頭におき、ホーム独自のモットーや特長を示した文言を検討中である。地域密着型サービスの意義を理解し、利用者が、地域生活の中で暮らせるように支援していく理念作りを期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と全職員は法人理念を共有し、理念の実践に向けて、日々取り組んでいる。また、全職員に理念を理解してもらえるように、日々の中で話し合い、確認している。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所は、地域の一員として孤立することなく、同地区内の保育園からの訪問を受けたり、地域の文化祭への参加、福祉ママ等のボランティアとの交流に努めている。また、積極的に地元の活動や地域住民との交流に取り組んでいる。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価のねらいや活用方法を全職員が理解しており、サービス評価に対するホームが改善するうえでの根拠を明確に理解し、改善効果も考えながら、また、1ユニットの継続性を加味しながら、活用している。利用者と一緒に食事することは、安全性の面から、まだ定着はしていないが、前回の改善点である、玄関口の「たまよし」という明示やホーム独自のホーム便り「うぐいす新聞」を発行する等、改善できている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成18年8月から2か月に1回運営推進会議を開催しており、利用者・家族・地域・行政・職員が参加して、ホームの質の向上や地域について話し合いができています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市・市地域包括支援センター・市社会福祉協議会等が定期的に訪問し、相談及び苦情受付を定期的実施している。また、市・市地域包括支援センター・市社会福祉協議会等と、地域の文化祭等で連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	一人ひとりの利用者の暮らしぶりを、家族の状況に応じて報告している。家族への報告は、月1回、ホーム利用料を現金で支払いにくる際に、合わせて実施している。また、ホーム便り「うぐいす新聞」も渡している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者・家族の意見や苦情等は、2か月に1回開催する運営推進会議で協議し、また、職員全体で話し合い、家族の意見を前向きに受け止め、ホーム運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	以前は、同一法人内の定期的な職員異動があったが、利用者の不安を考え、職員異動は最小限に抑え、やむを得ず離職等があった場合は、利用者が心配しないように職員間で引き継ぎをしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修会等に参加し、参加後、ホーム内では必ず報告会・勉強会を実施している。毎月1回は、法人内で研修会を開催している。今後、認知症ケア等、多岐に渡る研修会に参加したいと考えている。	○	今後も認知症ケア等、多岐に渡る研修会に参加したいと考えている。職員が働きながらトレーニングできる環境を、今以上取り組んでいけるよう期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	香川県グループホーム協議会の勉強会や相互評価等で交流している。県単位のネットワークづくりを通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。市町ごとのグループホームの交流を考えたい。	○	地域密着型サービスとなり、市町ごとのグループホームの交流機会ができるよう期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者・家族に、ホームを利用する前に見学してもらい、利用者にとって過ごしやすい環境整備が整えられるように取り組んでいる。緊急に利用する場合でも同様である。利用者と家族が安心して納得できるよう、段階において相談及びケアを実施しており、利用者の視点にたつて柔軟に支援できている。	○	ホーム内においては、利用者の状況を評価し、ホームの環境および雰囲気馴染むように支援している。今後は、地域密着型サービスの特徴である、馴染みながら本格的に利用する考え方、利用時のマニュアル作成を想定した取り組み等に期待したい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の過去の経験に基づく話、趣味、しぐさ等、日常生活場面の中で自然に掴み、利用者ができることは、時間をかけても見守る姿勢がうかがえる。また、利用者の喜怒哀楽に対して関心を示し、利用者との関係作りを築くことに努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの思いや希望、意向を把握して、利用者のペースに合わせて、ケアを実践している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画に対しては、利用者・家族の意向を取り入れて、職員一同、話し合いの中で意見やアイデアを出し、介護計画を作成しているが、必要に応じて、同一法人内にいるリハビリスタッフや看護師・相談員・介護支援専門員から助言を受けている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者・家族の意見や要望を取り入れつつ、介護計画の見直しを実践している。個人台帳は医学管理上、十分な情報が管理されているが、診療録に近い個人台帳であるので、医療情報とは別に、ケアプラン等の介護情報の流れも検討して欲しい。	○	ケアプランとサービス内容記録の整合性、連動性を工夫して欲しい。利用者、家族の意見や要望を取り入れ、介護計画の見直しを実践しているサービス内容記録の捉え方について、今後の取り組みに期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の状況に応じて、通院等の送迎支援等、柔軟に対応している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の一人ひとりの身体・精神機能と、それに伴う受診状況を把握して、希望する医療機関を受診できるように配慮している。管理者が医師なので、かかりつけ医とのきめ細やかな医療連携ができています。また、法人内の医療機関との連携もできています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	全職員が終末期のあり方に対する認識が高く、年1回以上の職員教育を開催している。利用者の医療依存度で、ホームの限界もあるが、可能な限り法人内で協力して、利用者・家族の意向に沿った終末期のあり方を提供したいと考えている。準備段階の部分もあるが、どのような病態が終末ケアに対して可能なのか、一つ一つ整理し、終末期のあり方に対するマニュアルも検討中である。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の尊厳に配慮し、記録等の個人情報の取り扱いについては、十分な対応をしている。ホーム便り「うぐいす新聞」等の広報活動等に対して、利用者の写真や動画の利用に関する同意確認書や個人情報法に関わる同意書について、家族に了承を得ている。また、同意書には、使用目的を限定し、明記している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとり利用者の生活リズムやペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している。ホームとしての計画よりも利用者の意向を優先している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームでの食事の一連の作業である「つぎ分け」「盛りつけ」を、利用者の機能に応じて職員と一緒に実践している。食事は法人内で準備している。職員が利用者と一緒に食事をするに関しては、利用者の重度化に伴い、食事介護が優先している状況である。後片づけは職員がしている。	○	職員数と利用者の介護度を考えると、現状継続が安全面に対する配慮だが、食事の一連の作業が、1日の流れで、最も利用者と職員が共同作業し、喜怒哀楽を共感できる場面なので、もう少し工夫をして、職員と利用者が一緒に食事ができるような取り組みを期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの希望に合わせて、入浴時間を設定している。車椅子利用者に対しては、法人内の併設の老人保健施設での入浴を実施している。	○	入浴回数を最低週2回と設定しても入浴を希望しない利用者があるため、利用者が自発的に入浴するよう支援できるように、今後の取り組みに期待したい。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者と職員が共同で、畑で野菜を作ったり、料理をしたりしている。また、利用者の残存機能を考えて、役割等のホームでの生活の張り合いを、職員が見つけ出している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や利用者の心身の状況に応じて、外出支援をしている。買い物やドライブに出かけている。職員数を考えながら小人数でできる工夫を、利用者と話し合いながら行っている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の希望で鍵をかけることもあるが、ほとんど鍵はかけていない。法人全体の建物として一つの玄関になっているため、常に玄関に法人内の職員がいるので、昼間、鍵をかける必要性がない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	利用者の一人ひとりの心身の状況を考えながら、毎月、定期的に法人全体で合同で消防訓練を行っている。12月、1月、2月、7月、8月は避難誘導せず、消化訓練のみである。災害対策に関する連絡網やマニュアルも完備している。また、地震等を想定すると、地域単位での災害対策が今後望まれるので、地域住民が参加できる避難訓練を実施したいと考えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内の管理栄養士が一週間の献立をたて、利用者の一人ひとりの栄養バランスを考えている。職員は、残った食事を確認し、食べられる工夫をしている。また、水分補強については、一人ひとりの利用者の心身状況や気候を勘案して、必要に応じてチェックしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間が数か所点在しており、テーブル、マッサージ機、椅子等が置かれている。利用者一人ひとりの五感を大切に、花や亀など、掲示物をいろいろ工夫している。	○	利用者から「居室がいい」と言われる場合があるので、利用者と家族、職員が話し合い、各々の居室の環境整備を工夫していきたいと考えており、今後の取り組みに期待したい。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた生活用品等は、自由に持参しているが、テレビが天井から設置しているため、利用者はベッドで寝た状態で、天井をみている状況である。別にテレビを持参されている利用者はいるが、天井をみている利用者もいる。	○	天井設置のテレビは既存に設置されたテレビだが、利用者が座って見る目線を考えた設置を、今後の取り組みとして期待したい。